

キトウシ森林公園でミニバイアスロン大会

8月21日、北海道バイアスロン連盟主催の2016東川ミニバイアスロン大会がキトウシ森林公園で開かれました。(結果は26各各種大会成績)



中学生男子優勝した河津航君の射撃(伏せ射ち)

今年で5回目。昨年より7人多い55人がエントリーしました。町内から東川ク

ロスカントリースキー少年団10人、2018韓国ピョンチャン(平昌)冬季オリンピックにタイ代表として出場を目指して町内でクロスカントリースキー競技をトレーニングしている日本語留學生のペッシーシャイ・パタラさん(21)が出場しました。

道内ミニバイアスロン競技は、2年前から東川大会をシーズン・インのスタートとする道内4大会(東川、札幌・滝野、札幌・盤溪、倶知安)の年間ポイント制シリーズ戦。

札幌から参加した河津航君(13)は北海道教育大学札幌校付属中1年。父親の勝さん(45)、弟の匠君(9)も同付属小3年。親子3人で出場し、

奈義町から災害見舞金

8月22日、岡山県奈義町(笠木義孝町長)、同町議会(小阪四郎議長)、(一社)つながる地域づくり研究所(岡山市、一井暁子代表理事)の三者から災害見舞金をいただきました。(関連記事8頁)



20日から21日にかけて町内を襲った停滞前線に伴う大雨災害被害に対して、慰労いただきました。ありがとうございます。

町政説明会の席上、大内善文同町まちづくり戦略室長、小阪議長が松岡市郎町長、大澤聰副議長にそれぞれ見舞金を託しました。同町議会は、移住・定住政策、写真の町事業、ふるさと株主制度などを視察するため、この日町議会議員ら一行15人が当町に3度目の来町をしました。

プリウスの森、7年目の下草刈り

7月24日、東3号北6線の町有林内にある「プリウスの森」で、植林地の下草刈りを行いました。

旭川トヨベツト(松尾俊彦社長)のCSR(企業の社会的貢献活動)の一環として森林整備に取り組み、8年前から植林をしてきた森で毎年1回下草刈りを行いました。今年下草刈りした区画は約1畝。シラカバは樹高約3.5m、ミズナラは約1.5m、ヤチダモは同2.5mほどに生長して

います。一方、木々の成長を妨げる雑草はひざ上までいばいに茂って手ごわい相手。社員と家族、同社でマイカーを購入したユーザー合わせて91人が全身汗いっばいになって伸び放題だった雑草を刈りました。快晴に恵まれ、正午の気温は約27度。照り返しの強い夏日に手こずりながら奮闘、みんなで囲んだジンギスカン鍋に舌鼓を打ちました。



SEA TO SUMMIT 環境イベント

8月20、21の両日、大雪旭岳SEA TO SUMMIT実行委員会(浜辺啓実委員長)は「大雪旭岳SEA TO SUMMIT 2016」を開きました。環境シンポジウムの開催と、カヌー、バイク、ハイイクで大雪山岳(標高2千291m)の頂上を目指す2日間の環境スポーツイベント。今年には道外42人を含む15都道府県から107人がエントリーしました。



しかし本道上陸した台風11号と温帯低気圧に伴う停滞前線の影響で観測史上最高の降水量を伴う前日の豪雨に見舞われ、山頂を目指す挑戦は中止。初日環境シンポジウムだけが開かれました。

シンポジウム会場の農村環境改善センターでは、札幌在住の山岳ガイド、奈良亘さんが「南極で生きるということ」と題して講演。シンガーソングライターの川口恭吾さん、町内在住の山岳ガイド、青木倫子さんと3人で「大雪山国立公園の魅力と展望」をテーマ

にパネルディスカッションしました。奈良さんは「大雪山は人気があるので、札幌に住んでいてガイドする機会が非常に多い。夏は大雪の奥深さ、いろいろなルートがある縦走路と、本州の3千メートル、4千メートルの高山植物がわずかに海外にない魅力」などを紹介しました。

川口さんは、日本有線大賞優先音楽賞を受賞した「桜」など、映画、ドラマなどのタイアップ曲を次々と披露して会場の歓声にこたえました。

ホームマツクの森、今年も植樹

8月9日、東3号北6線の町有林「ホームマツクの森」で、ホームマツク(札幌、石里靖規社長)で森づくり3年目の植樹をしました。企業の社会貢献の一環として取り組んでいます。旭川市内5店の社員と家族31人が参加しました。六角形の段ボール紙で作ったポット

台湾からのサイクリングメンバーが来町

台湾からのサイクリングツアー一行が8月3日から6日までキトウシ森林公園貸別荘ケビンに宿泊し、東川町を拠点に盛夏の「東川—美瑛—富良野」サイクリングを満喫しました。



美瑛—上富良野サイクリングに出発する一行(8月4日、キトウシ森林公園)

札幌、小樽観光に続いて忠別湖一周(約45km)、東川—美瑛、上富良野(約90km)のサイクリングをゆつくりと楽しみ、途中の風景を撮影するなど北海道の自然と風を体中で感じました。台湾大学1年の許堯庭さん(18)は「いつも北海道にきたいと思っています」。

2年生まで16人とその家族ら30人が初めて来道しました。一行が使用した自転車30台は、今夏からサイクリング用の本格多段ギア自転車レンタルを始めた東川振興公社で提供しました。

苗にシラカバ、ドロの木、ケヤマハンノキの苗木をそれぞれ120本ずつ用意し、軽土を削った地面にポット苗を置くだけという簡易植樹。3樹種を一組みにして組み合わせ、約0.4畝の荒地を整備しました。来年以降は下草刈りも行って森づくりを進めるとのことです。

